

## ロシア関連メモ 007

国際公共政策研究センター  
主任研究員 神野

## ロシア政府の信用収縮対策と銀行救済プラン

## 1. 信用収縮対策

プーチン首相は6月29日の経済関係閣僚及び主要国営銀行首脳との会談の席上、信用収縮対策として政府保証の増枠及び保証手続き簡素化を行うことを明らかにするとともに、国営銀行に対し期限を定めて融資増額を厳命した。命令内容は以下のとおり。

## 【プーチン大統領発言内容】

- ・ 銀行融資に対する政府保証枠を3,000億ルーブル(約96億ドル)増額する。
- ・ 同時に政府保証供与手続きを簡素化する。
- ・ ズベルバンク、対外経済銀行(VEB)、対外貿易銀行(VTB)、ガスプロムバンク、ロシア農業銀行(Rosselkhozbank)は、次のスケジュールに沿って実体セクターへの融資を増額すること。
 

8月1日まで:	1,500億ルーブル
9月1日まで:	1,500億ルーブル
10月1日まで:	1,000億ルーブル~2,000億ルーブル
合計	4,000億ルーブル~5,000億ルーブル(約130億ドル~160億ドル)
- ・ 融資の増加状況はシュバロフ第一副首相と各行頭取が共同でモニタリングを行う。
- ・ 目標を達成しない限り、各行の経営者には夏休みを取らせない！！

ロシア政府は危機対策プログラムの一環として09年2月に2,00億ルーブルの政府保証枠を設定したが条件が厳しく利用実績が殆ど無かった。今回この政府保証が利用しにくいという銀行からの批判に応じて条件を見直したもの。見直しの内容は、債務超過企業も保証対象に含めるなど、対象範囲の拡大と代位弁済条件の緩和等。

ロシアでは融資金利の高止まりと信用収縮のため、銀行セクターにおける不良債権の急拡大により「危機の第二波の瀬戸際にある」(ユルゲンス現代発展研究所所長)とも言われており、今回の命令はこの状況を打破しようとするプーチン首相の強い姿勢を示している。

## 2. 銀行救済プログラム

## (1) 不良債権の見直し

このようにロシア政府は不良債権増加を抑止するための強力な対策を講じようとしているが、ロシアにおける不良債権の状況及びその見通しはどのようなものであろうか。

ロシア中央銀行によると<sup>1</sup>、09年5月1日時点のロシア銀行の延滞債権額は7,252億ルーブルで債権総額に対する割合は3.6%としている。また、今後の見通しについて、ロシア中央銀行は年末までに不良債権比率が最大12%に達すると見ていると報道されている。

ユルゲンス現代発展研究所所長は論文<sup>2</sup>のなかで「現在の不良債権の状況がどうなのかは評価の仕方によって異なる。我々には共通の測定システムがないのだ。」と述べており、ロシア国内にも様々な見方があるようだ。

格付機関はかなり厳しい見方をしており、ムーディーズは09年5月発行のレポート<sup>3</sup>で次のように述べている。

「ムーディーズは現状のロシアにおける不良債権の状況について、2008年初めから不良債権比率は4.6%上昇し、2009年第2四半期初めにおいて11.0%であると推定する。この不良債権比率推定についてはロシア中央銀行の公表値、1.3%(2008年1月1日時点)~3.1%(2009年4月1)をベースとしている。しかし、ロシア中央銀行は延滞になった額のみを延滞債権額として計上しているが、これに対しIFRSベースでは延滞債権全額を不良債権として扱う。」

「IFRSベースで推計するとロシアの不良債権比率は2009年末までに10%~15%上昇し20%に達するであろう」。

S&Pも2009年末時点のロシアの不良債権比率を15%~20%に達すると推定している<sup>4</sup>。

6月29日付FTは、ロシア国家院銀行委員会委員パヴェル・メドベージェフ議員の「状況がどのくらい悪化しているのか誰にも分からない」という言葉を引用しており、ロシア国内では格付け機関以上に高い不良債権比率を予測している機関もある模様で、先行き不透明感が強い。

## (2) 銀行救済プログラム

ロシア政府は信用収縮対策の強化により不良債権の増加を抑えようとしているが、同時に資本不足に陥った銀行を救済するための追加的プログラムの検討も進めている。

政府はこれまで危機対策プログラムにおいて銀行の資本増強のために1兆ルーブル以上を支出してきた。今後不良債の増加によって追加的資本注入がどの程度必要になるのかについては、上述のムーディーズのレポートは、1兆3,000億ルーブル(約400億ドル)に上ると見ている。また、ユルゲンス所長前記論文において「不良債権比率が18%~20%だと260億ドルの追加支援が必要で、30%だと710億ドルが必要だと試算されている。」と述べている。

現在検討されている救済プログラムの総額は現段階で不明で断片的情報となるが、検討されているスキームのポイントは以下のようなものと報道されている。

<sup>1</sup> Bank of Russia "Review of the Banking Sector of the Russian Federation09/6"

<sup>2</sup> Igor Yurgens: "A compromise will need to be reached between filling state coffers and developing the economy"27/5/2009

<sup>3</sup> Moody's Global Banking, Special Comment "Russian Banks : Major challenge amid the economic downturn" 2009/5

<sup>4</sup> S&P Rating Direct "Kazakh, Russia and Ukrainian Banks Face Another Tough Year of Poor Asset Quality and Thin Liquidity" 18/5/2009

### 【銀行救済プランの概要】

- ・ 総資産額 500 億ルーブル(160 億ドル)以上の銀行を対象とする。
- ・ 銀行に「真の」不良債権額を報告させる。
- ・ 連邦政府が OFZ 債権(Federal Loan Obligations)を発行し銀行に付与し、対価として銀行が優先株式を発行する。
- ・ 銀行が OFZ 債権(Federal Loan Obligations)を中央銀行に 1 年の買い戻し条件付で売却し、資金を調達する。
- ・ 2009 年中にこのスキームを遂行し、2010 年初めか銀行が「バランスシートをきれいにした上で」融資を再開する。

ロシアの総資産 500 億ルーブル以上の銀行は、09 年 5 月 1 日時点で約 1,100 行中 64 行である。上位 50 行の総資産は銀行全体の総資産の 8 割以上を占めており集中度が高い。したがってこのスキームの対象となると見られる約 60 行でも資産規模的には大部分を対象とすることになる。しかし、中小規模の金融機関を対象としないことについては批判の声もあると報道されている。

連邦政府が OFZ 債権を発行して、銀行がそれを担保として中央銀行から資金を調達するスキームについては、ロシア始まって以来の財政赤字という厳しい財政状況を反映したものであると見られる。

このスキームでは他国の銀行救済スキームと異なり、株主となった政府が銀行に役員を派遣し取締役会における議決権も保有する模様。これによって融資の決定についても政府の意向を反映させようとするものと見られる。

### 3. 予算関係

5 月末にメドヴェージェフ大統領から予算教書「2010 年から 2012 年の予算編成方針」(ロシア関連メモ 002 参照)が明らかにされたが、6 月 29 日の経済関係閣僚会議においてその方針を具体化する検討が開始された。この点に関するプーチン首相指示内容は以下のとおり。

#### 1. 優先配分項目の決定

- ・ 予算教書の方針に従い予算配分優先項目及び配分額を決定する。
- ・ 重点分野は予算教書とおり①社会的コミットメントの遂行、②ヘルスケア、③教育、④科学、⑤ハイテク、⑥イノベーション
- ・ 同時にカット及び支出を延期する項目についても財務大臣及び経済発展大臣に検討・報告を指示。

#### 2. 財政赤字削減策

- ・ 昨年からの危機対策プログラムによる減税で税収 7,000 億ルーブル減少見込み。
- ・ さらに 2010 年に中小企業の税制ルール簡素化による税収減見込まれる(額不明)。
- ・ 年金保険の掛金引上げを 2011 年まで延期し、同時に 2010 年に年金を増額することによる

支出増が 7,000 億ルーブル見込み。

- ・ この危機の状況において社会的支出プランの実行を継続し、マクロ経済の安定を維持しつつ財政赤字を削減するためには、追加的な税収源を見出さなくてはならない。
- ・ 増税項目の決定プロセスは明確かつ公正でなくてはならない。あくまで経済成長を妨げない財源とする。

財務省の予測では 2010 年のロシアの財政赤字は GDP の 5%に拡大する見込み。増税の対象としては、天然ガス採掘税、タバコ、アルコール、ガソリンの各税が上げられている。

以上